

第 2 回

台東区震災復興小学校の校舎及び
用地の有効活用に関する検討委員会

日 時 平成 2 8 年 9 月 9 日

台東区企画課

- 1 日 時 平成28年9月9日(金) 10:00～12:10
- 2 会 場 区役所4階 庁議室
- 3 出席者 委員長 越 澤 明 副委員長 吉 川 徹
(5人) 委 員 元 倉 眞 琴 委 員 山 家 京 子
委 員 野 本 孝 三
- 4 欠席者
(0人)
- 5 事務局 企画財政部長 佐 藤 徳 久
副参事 佐々木 洋 人

(午前10時00分 開会)

○事務局 皆さん、おはようございます。定刻よりやや早いですが、おそろいになりましたので、開始したいと思います。

それでは、委員長、進行をよろしくお願いいたします。

○委員長 では、本日は第2回目ということになりますが、台東区震災復興小学校の校舎及び用地の有効活用に関する検討委員会を開催したいと思います。

本日は、ご多忙の中、皆様、お集まりいただきありがとうございました。また、区役所の中の関係の方もいらっしゃっているということで、よろしくお願いいたします。

では、早速ですが、本日の議題に従いまして進めたいと思いますが、まず、最初は、資料の確認と説明からよろしくお願いいたします。

○事務局 ありがとうございます。それでは、配布資料の確認をさせていただきます。

(配布資料確認)

○委員長 ありがとうございました。

では、続きまして、傍聴についてでございます。

第1回は傍聴希望者がおりませんでした、第2回はどのように聞いておりますので、まず、本件の傍聴についてご説明よろしくお願いいたします。

○事務局 本日、傍聴の希望者が1名となっております。事務局で事前に承認確認をしたところ、先ほどの参考1にございます傍聴の要領に合致していましたことをご報告いたします。

参考までに、映像、撮影などの希望はございませんでした。

以上でございます。

○委員長 それでは、傍聴についてお諮りします。

委員会については、前回決定したとおり、原則、公開となっておりますので、傍聴を許可したいと思います、いかがでございましょうか。

(異議なし)

○委員長 それでは、傍聴を許可することいたします。よろしくお願いいたします。

○事務局 それでは、これから傍聴者の方を誘導して、入室させていただきます。

(傍聴者 入室)

○委員長 それでは、本日の議題に入りたいと思います。

まず、議題の2、第1回検討委員会の議事録の掲載について、事務局より、ご説明お願

いたします。

○事務局 それでは、第1回検討委員会の議事録の掲載についてご説明いたします。

(資料1説明)

○委員長 ありがとうございました。

では、本議事録を本日の検討委員会終了後に区のホームページに掲載したいと思います
が、よろしいですか。

(異議なし)

○委員長 ありがとうございます。

それでは、よろしくお願ひしたいと思います。

では、続きまして、議題の3でございます。第1回検討会における意見回答について、
事務局よりご説明をお願いいたします。

○事務局 それでは、第1回検討委員会における意見について、ご説明いたします。

(資料2、別紙1～6、参考3説明)

○委員長 ありがとうございました。

まず、本日は、この次第4にあります、これは本題ですけれども、その前に前回のご指
摘に基づく追加資料がございましたので、かなり本日の議論に関係があると思いますが、
何かご質問とか、さらにこういう資料を出してほしいとか、ご意見がありましたら、よろ
しくお願ひいたします。

順序はどこでも結構です。いかがでしょうか。

○委員 お聞きしたいのですけれども、今の説明の中で、別紙4で台東区震災復興小学校
の活用検討経緯について、これまで深い、浅いというのか、あるいはある程度確定的とい
うものも含めて、何らかの検討経緯や計画がありますよね。

○事務局 はい。

○委員 この検討委員会の中で、それらの検討過程などをまるきり無視したら、いろいろ
話がおかしくなるのかなと思います。

そのため、場合によってはかなり白紙的にいろいろな根本的なご意見をいただいていい
ものもあるのだろうし、逆に、ある程度、これについてはこのような方向というものもあ
ろうかと思います。その辺は何か各個別の小学校の検討をするときに、この学校について
はこのような方向にありますといったものをサジェスションしながら進めていくのかどう
かと思ったのですが。

○事務局 前回も申し上げましたが、今まさに、例えば旧坂本小学校は地域の検討会において活用のいろいろな意見交換をしているところでございますけれども、その意見交換の状況につきましては、適宜、本検討委員会にも情報提供をさせていただいて、皆様の参考にしていただきたいと思いますと思っております。

旧下谷小学校につきましても、現在ガイドラインを策定して、周辺地域の皆様に説明などもしている状況でございます。今後の進め方などについても、適宜、本検討委員会でお話はさせていただきたいと考えております。

○委員 検討の意見を縛るということではないですが、一定の配慮をすべきことはあるかと思います。

○事務局 おっしゃるとおりです。逆に言いますと、例えば旧坂本小学校の地域の検討小委員会の場でも、このような台東区震災復興小学校の検討委員会を開催しているというお話はさせていただいておりますので、相互に情報提供をしていきたいと考えてございます。

○委員 わかりました。

○委員長 ほかにいかがでしょうか。

○委員 資料の別紙の4を見ると、平成14年に「学校跡地の活用構想」というものが、それぞれの学校のところに検討したと記されていますが、その「学校跡地の活用構想」の資料を我々が見ることはできますか。

○事務局 可能でございます。会議中に皆様のお手元にお配りしたいと思います。平成14年に学校跡地活用構想を策定しましたが、その後、平成23年に大規模用地活用構想というのも策定しており、そちらが最新のものになります。

○委員 我々のこの委員会は、大規模用地活用構想を受け継いだ形で議論されと考えてよろしいですか。

活用の中には、当然、校舎を保全するか、旧坂本小学校のように、現在、もう地域から解体してもいいという意見が出ているようなものもあるなど、多分、大規模用地活用構想の中にさまざまな意見があるのだろうと思っておりますけれども。

○事務局 後ほどご覧いただくことになりますが、大規模用地活用構想には解体や保存など、そのような記載はありません。

○委員 前回も確認させていただいたのですが、この委員会の位置づけということなのですが、私の理解は、これまでのあらゆる構想を引き継いで、それに何か根拠を与えていくというのではなく、ある意味、独立したものという理解でいるのですが、それで

よろしいのでしょうか。

○事務局 そうですね。それは前回もお話がありましたが、あくまで参考情報としてお示ししますので、この検討会の位置づけとしては、委員がおっしゃるとおりというふうに考えております。

○委員 先ほどの別紙4の4ページの旧坂本小学校でわからないところがあり教えてほしいのですが、まず、検討経過の中で、旧坂本小学校の活用に関する提案募集を実施して、実現性の高い提案を受けるとともにという記載があったのですが、これは実際どのような提案があったのかということを、私たちは見せていただくことは可能でしょうか。

○事務局 はい、可能でございます。実際、ホームページにも公表はしているのですが、資料として用意することは可能です。

○委員 学識経験者で構成する検討委員会というものは、右に書かれている旧坂本小学校再開発検討小委員会と同一の委員会ですか。

○事務局 別でございます。

○委員 この平成26年の提案募集の内容、学識経験者で構成する検討委員会から具体的に出された意見等を知りたいと思うのですが。

○事務局 わかりました。資料としては公表できるもので、事務局のほうでご用意したいと思います。

○委員 主な意見のほうでは、先ほどのお話ですと、入谷地区再開発検討委員会というのは、住民の方が自主的に立ち上げた委員会という理解ですか。

○事務局 おっしゃるとおりでございます。

○委員 すると、旧坂本小学校の歴史的価値に関する結論ということがあるのですが、これはあくまでも住民の方が立ち上げられた委員会の中で位置づけられたもので、例えば学識経験者が歴史的検討を行ったという意味ではないのですか。

○事務局 そういった意味ではありません。

○委員 さらにお聞きますと、その旧坂本小学校、全ての小学校に対してですけれども、そういった近代建築の歴史的な検討というのは区の中でなされているのでしょうか。

○事務局 これまで第1回検討委員会でお配りさせていただきましたが、近代建築としてのくくりでは、本区教育委員会がまとめた冊子がございます。ただし、復興小学校のみとしては今まで検討は行っておりません。そのため、今回のような検討委員会を設置したということでございます。

○委員 わかりました。先ほど、旧坂本小学校再開発検討小委員会は、入谷再開発検討委員会と一致しないということなのですが、この小委員会というのは何なのでしょう。

○事務局 いずれにしても、資料でこの辺も後ほど説明が必要かなと思いますが、入谷地区再開発検討委員会は入谷地区の広い範囲での地域住民の方の集まりで、その下部組織として、この旧坂本小学校の近隣の住民の方で構成する自主的な検討会が旧坂本小学校再開発検討小委員会と呼ばれています。

○委員 では、いずれにしても、この活用に関する主な意見のところに含まれている委員会二つは、住民の方の委員会という理解でよろしいですか。

○事務局 おっしゃるとおりでございます。

○委員 わかりました。ありがとうございました。

○委員長 地域の委員会の開催の回数や、委員名簿などを配ってくれませんか。

これはつまり地元が独自に立ち上げた委員会は、地元の委員会として重要だと思います。

もちろん、地元の意見は地元として見なければならないのですけれども、委員が気にしているのは、例えば、台東区全体の近代建築をどう見たらいいかという観点があったのかどうか、また、そういう視点がない中で出ている意見であれば、我々はその上でこちらも意見を出していくことになると思います。

○事務局 わかりました。

○委員長 では、ほかにご意見はいかがですか。

私から質問ですが、京都の実情を把握されて、感想はどうでしたか。

○事務局 例えば、元清水小学校というところで、こちらはまだ新たな活用は始まっておりませんが、確かに清水寺の近くにあり、清水寺の門前の坂道沿いにある学校で、既存校舎の立地も高台の上にあり、例えば屋上から周りがとてもきれいに見渡せるというようなところもありますので、それらを活かしてホテルということであれば、それなりに魅力的な施設ができるというような感じはしました。

また、マンガミュージアムも、こういった使い方があるのは正直驚きました。施設内は本当にフリーで、色々な場所で漫画が読めるというようなところにもなっていますし、子供用のスペースもあるなど、魅力的な施設だと感じました。また、校庭が芝生で、そこで晴れている日には寝転びながら漫画を読めるとかというところもあり、そういう特色ある施設学校をうまく使って活用しているという印象を持ちました。

今回、視察した京都の学校は、番組小学校と呼ばれるところで、京都市の担当者の方に

もお話を聞いたのですが、その設立のときにはその周辺地域の皆様が寄付を出し、周辺地域の皆様の力によって建てられた地元の学校という背景がございます。

やはり、その活用を決める際には、地元がどう考えているのかというのが、ある意味、最優先というところも伺っておりまして、今後、活用を決めなければならない学校が幾つもありますが、それらについても、やはり地元の意見をどう拾っていくかというところを工夫しながらやっているというところもございました。

○委員長 では、本日の資料の中身について、そのほかご質問はございますか。またお気づきでしたら、本題の議論をしている途中で、また適宜、伺いたいと思います。

補足で聞きたいのですが、別紙1です。

ナンバー7以降の校舎は、全部、建物としては建て替わっているということでもいいですね。

○事務局 おっしゃるとおりでございます。

○委員長 当時の建物としては、もうないということですね。

○事務局 ありません。

○委員長 それから、一番下の民間貸付は、これは土地の売却はせずに、区有地としてお持ちだということですね。

○事務局 おっしゃるとおりでございます。

○委員長 まだ土地そのものを売却していないということでよろしいですか。

○事務局 はい、そうです。

○委員長 それは区の姿勢としてそうだったということによろしいですね。

○事務局 そうです。やはり、ある程度公共的な用途としての機能を持ち続けてほしいというところもございます。

○委員長 最終的には、この別紙1は全体の今回のまとめの中の資料に入ってくると思いますので、資料の最後の三つは、これは定期借地や、その土地の扱いの部分を書記して配っていただけますか。配っていただいて、例えば50年貸しているのか、あるいは、定期借地後に解体して返却となっているのか、あるいはさらに延長を認めるとなどを含め追記をよろしくお願いします。

○事務局 はい、わかりました。

○委員長 では、早速ですが、本日の本題に入りたいと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

次第の４で、台東区震災復興小学校の校舎及び用地の有効活用について、事務局から、ご説明をお願いいたします。

これについて、かなり細かく議論をするというのが本日の目的になりますので、よろしくお願ひしたいと思います。

では、資料の説明をお願いいたします。

○事務局 それでは、資料３をご覧ください。

(資料３説明)

○委員長 まず、本日どこまで、何を議論するかということになりますけれども、ご提案としては、まず現役小学校、これは基本的に区として保存して活用しているということについての前提は、各委員何も異論はないと思います。

また、旧小島小学校は非常に大事に維持されていますので、むしろその今後のあり方などについては、本日議論はできるのではないかと思います。問題は、やはり小学校としては使われていなくて、今後どうするかという部分が大きな３校についての課題ということで、これを第３回、第４回に議論していきたいと思います。

それから、１回目の委員会でご議論ありましたが、やはりもう一回ぐらい必要になったときには、場合によって検討委員会の回数をもう１回増やすということも、ご提案としてありましたので、その点は第３回の議論の推移を見ながら考えたいと思います。

当面のスケジュールとしては、本日、基本的にこの３校について、本検討委員会としての方向性、ある程度の結論は出していきたいというような進め方でよろしいですか。

(異議なし)

○委員長 ありがとうございます。

方向性としては３校について本日合意を得たいと考えております。また、旧柳北小学校以下３校について、資料要求など積極的にご発言いただくことでよろしくお願ひしたいと思います。

では、まず、この現役であり、なおかつ保存・活用されているという黒門小学校と東浅草小学校につきまして、どのような点でも結構ですが、ご発言、ご意見いただきたいと思います。

○委員 東浅草小学校については、今戸公園の図面が出てきて大変よかったなと思って見ていました。もともとは、やはり現在校庭として使っているところはもともと公園なのですよね。

○事務局 はい、もともとはそのような形になっております。

○委員 敷地面積もややこは小さいですか。

○事務局 はい。

○委員長 詳細なことは事務局にお願いして、結果論で言いますと、実は戦後、小学生が急増したときに、一般的になのですが公園を復興小学校や中学校の用地に転用したケースがあります。それは当時の行政需要としてです。現在はそれが逆に減少してきたのでどうするかということは区ごとの対応に委ねられているというのが実態になっていますが、今のご質問に対していかがでしょうか。

○委員 敷地としては、ここは狭いですね。

○事務局 そうですね。約2,800平米ということで、小さいほうの敷地ということになろうかと思います。

○委員 学校として今きちんと運用されているので大変結構だと思うのですが、今後ともその公園と両方を活かしながら、運用するとすれば今後もそういうことを注意深く進めていくとよろしいのではないかと思います。

例えば、体育館だけは建て替えているわけですが、もしもまた体育館を建て替えることになった場合、そのときに公園との関係をどうするのかというのは非常に注意深く設計をする。プールも元は公園だったところにプールをつくっていますが、将来的には恐らくプールをどうするという話も出てくると思うので、そういうときにいろいろと知恵を使って、公園と両方ともうまく使えるように計画を立てていくと、恐らく狭い敷地でもうまく学校として活用できるのではないかと思います。

○委員長 ありがとうございます。

ほか、また皆さん、いかがでしょうか。

○委員 黒門小学校は現地も見学させていただき、非常に保存すべきというのでしょうか、そういった歴史的価値が高そうだと感じました。学校として、今後とも現役小学校として活用するという方針が多分あるのだらうなと思うのですが、学校として活用する際にはある程度直したいところも出てくると思います。

その中で、これをもう最優先に保存するというのが、何か出ているのでしょうか。専門家のこれが特に価値があるなど、以前見せていただいたときに写真で紹介されたところはその一例だとは思いますが、一切全くさわってはいけないとなると、これはいろいろと困るところもあると思います。

優先的に保存するというのは専門家として何かご意見をいただいて、決まっているのでしょうか。

○事務局 黒門小学校の大規模改修で、先ほど改修の配慮点ということでご説明させていただきましたが、特にその優先度というところまで設定しているということは聞いていませんが、それぞれそのポイントで配慮をしていくというようなやり方になっているかとは思います。

先ほど申し上げました、例えばそのアーチの梁の配管を整理するということもありますし、塗装の色についても配慮していくというところでございます。

○委員長 他にいかがでしょうか。

率直に伺いたいのですが、別紙1のようなリストできちんと見ることは区民の方もそんなにはなかったと思うのですが、いずれにせよ多くの小学校が建て替えられていて、現役で残っている非常に数少ない小学校だということは、皆さん多分認識されていると思います。そういう地域の方々、親の代から実は小学校に通っていたという方も多いと思うので、そういう古い建物で学んでいるということは、やはり誇りを持っているのか、また、何となくここは建て替えられていないので何か古臭いところを使っているという意識なのか、どうなのでしょう。

○事務局 そのご意見につきましては、先ほどその別紙4でありますとおり、例えばその工事の話につきましても、保護者の方からもその意匠の話とかそういったことが出ておりますので、その辺の意識としては地域の方もお持ちなのかなという認識はございます。

○委員長 それはね、やはり戦後の新しい建物はどうしても機能面でいうと同じにはいかない部分があると思うので、その点は区の姿勢としては、やはりむしろ古い建物を使用しているという中で、多少不便さは出てくる部分はあるかもしれない。それはむしろ、こういう建物を大事に使っていきましようということで意思をお持ちなのか、あるいは教員の立場でやはり少し本当は使いにくいんだということなのか、そのあたりの認識はいかがでしょうか。今使っているから、ただ仕方がないと思っているのか、むしろ積極的にこういうことを使いこなしていくのが台東区としての姿勢ですというところまでいつているのか。

○事務局 黒門小学校は特に伝統校なので、台東区立黒門小学校育ての会という地元の会があります。そこでは、やはりその黒門小学校の復興小学校の意匠などはきちっと受け継いでほしいという意見の人もいますし、やはり児童・生徒のために利便性を、しっかり使えるような形にしてほしいという意見もいろいろ出ているというのが現実です。

ただ、区としては、復興小学校として黒門小学校は残っていますので、それをここに書いてある別紙6の留意事項のとおりのことを念頭に置きながら大規模改修をしています。

○委員長 区として、今までこの2校についてはそういう歴史も踏まえながら今後も維持していくという姿勢ですし、また、小学生が大幅に増えるという状況は多分、台東区も考えられない。ですから、生徒数も多分急激に増えることで非常にまた施設整備が狂うということでもないと思いますので、区としても将来の姿は多分判断できるということだと思います。

各委員から大きな点のご注文がなければ、現状の方向は大変、我々としてはよろしいのではないかとということで、ぜひ引き続きこの小学校の意義をより積極的にPRして、ぜひ地域の方に愛される形で使いこなしてほしいというのが我々共通の見解であると思います。

何か細かいところで、お気づきの点などはございますか。まだ最終回まで若干ありますので、実はあそこのところをもう少しこうしてくれるといいなというのは多分あると思います。

○委員 配られた資料の別紙2で耐震の状況に関してのリストがありますが、ここに工事金額の記載があり、例えば黒門小学校は耐震に幾らで、電気に幾らと書いてあります。それから、東浅草小学校は耐震で2, 100万と書いてあります。現在、黒門小学校は、この耐震と電気と、その他の改修もしているということですか。

○事務局 そうです。ここの記載はあくまでも耐震補強工事に関するものでございまして、現在行っているのは維持保全のための全体の大規模改修でございます。

○委員 それは、色々な設備や何かも含めて行っているということですか。

○事務局 おっしゃるとおりでございます。

○委員 同じように、東浅草小学校というのは、いわゆるそういう改修工事としてはどうなのでしょう。

○事務局 別紙4の東浅草小学校のところにありますが、別紙3の施設保全計画にのっとり、今後そういった大規模改修を行っていく施設ということになっております。

○委員 行っていくことになるわけですね。

○事務局 はい。

○委員 旧小島小学校に関しても、大体終わっているということになりますか。

○事務局 耐震補強ですか。

○委員 そうではなくて、これから改修の予定がありますか。

○事務局 それは、老朽化が来ればそのタイミングでこの保全計画にのっとって改修していく施設というところになります。

○委員 今の委員のご発言に関連してなのですが、確かに参考6の58ページ以降を見ると、次に東浅草小学校の大規模改修はすでに予定に組み込まれています。

○事務局 10年間の中に組み込まれておりますが、5年間の細かい計画にはまだ組み込まれていないという状況です。

○委員 では、順番としては概ねこういう順番なのですね。

○事務局 そうです。

○事務局 参考6の58ページをご覧ください、8番に東浅草小学校があり、30番には中小企業振興センター、これが旧小島小学校でございます。10年間の中で順次工事を行っていく予定でございます。

○委員 つまり、東浅草小学校についても大規模な改修を行うときは、歴史的な価値をどう考えるのかなど、先ほど申し上げた公園との関係をどうするのかについて、事前に入念に調査・検討し、区として今後も、先ほど委員長がおっしゃった方針で使いこなしていただくということであれば、使いこなすにふさわしい改修計画になると思います。

黒門小学校については、先ほどもご指摘があったように、価値についての議論がある意味、社会的、合意的な部分も存在していると思うのですが、いただいた資料の中では、東浅草小学校は使っている人の間で特にそういう意見は、まだそれほど大きくは出ていないようなので、どこの部分についてはむしろ見せるようにすべきではないかとか、ここの部分は使いよくするために変えるべきではないかというようなことについては、慎重にご検討いただくということが必要だと思います。

気がつく改修の時期が来てしまいますし、こういった改修については部門別に分かれているので、改修のほうは非常に今の先生方が生徒の皆さんのご希望に合わせて全部変えてしましましょう、といった提案が出ることもあります。それについては慎重に進めていただいて、ぜひ歴史的な価値をより深めて、高めて、地元の方にも非常に意義深く使っていただくという方向に進めていただくとよろしいかと思います。

○委員長 黒門小学校はもともと黒門という場所での多分老舗の旦那衆が多かったり、そういう歴史があるのだと思いますが、東浅草小学校については、この両校が現役で使っているただ二つの学校ということで意味がある。やはり小学生、特に学校の先生が展示をしたり、絶えずPRしたり、卒業式のときに一言お話するなど、絶えず校長先生にも「皆さ

んは大変歴史のある学校の中で学んだのですよ」と、そういう話を一言話してもらうなどをするとはんのわずかでも記憶に残ると思います。今まで区として復興小学校の現存校舎の意義についてはそれほど積極的にはPRしてなかったと思いますので、ぜひそれも含めて考えてほしい。

それから、最後のディテールの意匠というのは、実はこういうのがこうでとか、かつてはほかの学校にもあったものが今はここだけに見られるとか、そういう目で見ると多少違うと思いますから、ぜひそういう引き続き努力を、教育委員会、それから都市整備とかいろいろ関係部局と協力してやっていただきたいと思います。

では、2校の小学校については、現在の区取組はよしということで我々の結論ですが、今までの各委員の意見も踏まえながら、次回まとめて案を出していく形でよろしいですか。

○事務局 はい。

○委員長 それをもとに、我々でまた、こういうふうに書き込んでほしいとか、いろいろ注文したいと思います。よろしくお願ひしたいと思います。

では、途中でお気づきでも、2校についてご指摘があっても結構だという前提で、現在、保存しながら学校としては使用されずに別の利用の仕方をされている旧小島小学校について意見交換をしたいと思いますが、どのような点でも結構ですけれども、よろしくお願ひしたいと思います。

○委員 先日、やはり見学させていただきました、旧小島小学校はこのトイレでしょうか、円形のトイレだと思いますが、外から見たとき、階段室か何かかと思ったのですが、トイレの上の屋上に、円形のパーゴラのような施設があるというのは、デザインというかそういう建築的には全くの素人なのですけれども、旧小島小学校の非常に大きな特徴なのかなと思います。一方で、中小企業振興センターとして整備する方針ということで、専門の先生方にすれば、旧小島小学校のいわゆる外観など意匠的にどいったところを保存すべきかなど、その辺は逆に教えていただきたいと思います。

○委員 先生方の方が専門かとは思いますが、やはり今ご指摘があったトイレであるとか、屋上のパーゴラであるとか、復興小学校の特徴をとどめていきますし、復興小公園との連続性というのも非常に特徴かなと思います。

少し加えますと、やはり旧小島小学校に関しては、先ほどの現役小学校はやはり一般の区民の方はなかなか実際に入る機会が少ないのかなというふうに考えますと、この旧小島小学校は一般の方であっても復興小学校を実際に体験できるようないい場所でもあるので、

まずは中小企業振興センターとしての利活用でよろしいかと思うのですが、例えばアーツ千代田3331であるとか、いろいろ類似例を見ましても、カフェであるとか何か少し開く、一般の方が活用しやすいような方向と、さらにそこがトイレであるとかパーゴラであるとか非常に特徴的なところとの利用みたいなことも含めて、少し整備の方向を考えていただくとよいと思います。

さらに、現在の経済状況から考えますと、駐車場、コインパーキング利用もいたし方ない部分もあるかと思うのですが、将来的にはやはり復興小学校、その小公園との利用のあり方を考えますと、やはり外部空間も非常に重要な、引き継ぐべき要素かなと思いますので、将来的にはそこもうまく、駐車場というよりは少し、多少公園的といいますか、人々がそこでくつろいだりリラックスできたりというような利用の方向に少しずつ転換できるとよいと思います。

○委員長 ご質問なのですが、今の、確かに台東区は江戸時代から特に工芸、また現在区の一つの重要な地場産業の部分もありまして、あのような使い方は大変結構だと思いますが、区としては旧小島小学校は残しながら学校用途以外で使うという方針はもう決まっているのですか。

○事務局 そうです。

○委員長 ただ、産業系のあの形というのは20年後、30年後また見直しになる可能性はありますか。つまり、区の仕切りといいますか位置づけといいますか。

○事務局 今現状におきましては、あの建物全体を中小企業振興センターとして整備するという方向で活用していくということにしておりまして、あの1棟を中小企業の振興に資する施設として活用していくと位置づけたところでございます。

○委員長 ただ、その機能は、例えば将来色々な区全体公共物の中では一種どこでも移せる、機能だと思いますが、そのあたりはその時点で考えるということですか。

○事務局 現状と大幅に何か状況が変わればということはあるかもしれませんが、今のこの現状においては、先ほどの施設保全計画にも大規模改修の予定で記載していますとおり、このままの状況でやっていきたいという考えはございます。

○委員長 我々のほうの論理は、やはりこの復興小学校の中で現存のものの意義と、現役で使うものは現役で使うことですが、場合によっては20年30年後、別の形の使い方というものもあるかもしれません。つまり、デザイナーを養成する場所というのは、また新たに別の場所ができれば、何が何でも小学校の跡地でなければデザイナー養成をできる、で

きないというわけではないと思います。

それから、中小企業振興センターのその事務所機能も、今はあの場所にデザイナー養成と機能がセットになっているので意味があると思うのですが、未来永劫あそこにどうしても置かなければならないというわけでもないと思います。

それで、つまり何を気にしているかという、あの建物自体をまず区として産業系で使うということよりも、建物は残して区として大事に使っていくという大方針の部分がまず重要で、産業に使用するという方針はあるのだけれど、そこはどうも明確には見えてこない。

それと、今、委員からお話があったように、もともとは復興小学校は、復興小公園とセットなので、その特に校庭と公園の使い方、もともとは一体設計ですから、その使い方もよりよい方向があるかもしれないと思います。

それから、京都の場合もそうですが、カフェなどを設置しています。この資料の中では旧明倫小学校が出ているのですが、カフェがあってなかなか雰囲気がいい。旧小島小学校の場合はカフェがありませんが、近い例ではこのアーツ千代田3331においてもカフェがあるということがあります。その点は基本の考え方があった上で、主要の部分は産業のほうにも使っていて、全体はどうなのかというところは、今まで区としてはあまり、不明確といいますか、保存されているということはわかるのですが、その辺はいかがですか。

○事務局 実際やはりある資産を活用ということで、あの状況があり、そこを有効活用するという視点でやはり中小企業振興センターとして活用しているということでございます。委員長がおっしゃるような視点で建物を、建物視点で今後どうしていくというところの明確なものは、今現在はまだないというところは確かだと思います。

○委員長 今この委員会で方向を出す場合、区として、それは迷惑または歓迎となるのでしょうか。

○事務局 そこは、もともと、先ほど委員がおっしゃったとおり、あくまでこの検討会は独立性があるものでございます。

やはり、最終的には行政需要というか、今後、もしもこの先、行政需要が現在と大幅に変わり、必要性がなくなることもあるかもしれません。その時点での行政の判断は当然させていただくことになります。

○委員長 いずれにしろ、この時期に、こういうメンバーで検討したということはきちんと記録に残っていますので、そういう意味では今どういうご発言をしていただけるかが一

番鍵になります。

やはり旧小島小学校の取り扱いというのはこの特に委員会のやはり一つの大きな成果の1つになると思います。

○委員 旧小島小学校の利用の基本的な姿勢というのは、古い小学校があつて、そこを活用するのであったらこういう活用方法がありますよという段階のように見えるのです。実際にここで行われている、アーティストやクラフトの人に対しての支援であるとか、ここを新しい産業の一つの拠点にするという考え方は、とてもおもしろいと思います。

ただ、その旧小島小学校が本当に今まで他に例のない新しい活動の拠点だということを全面に打ち出しているわけではないですよ。つまり台東区が本気になって新しい産業の業態、支援をしているということの拠点としてその場所があるというようにはなっていないと思います。

今の活動をもっと拡大するなり、その可能性を徹底的にそこで展開することができるのではないかなと思います。それによって、今の旧小島小学校の空間をもっと改修してもいいし、新たな空間が必要であればプラスしてもいいと思います。つまり新しい活動としての拠点という視点で今の旧小島小学校をもっとドライブさせるということもできると思います。

アーツ千代田3331の場合には、完全にアートセンターになっているわけです。やはり東京の日本のアートシーンの中の非常に重要な活動の一つになっていて、小学校がどうかというよりも、もうアーツ千代田3331がどうかという話になっています。旧小島小学校も同じような活動というものに拡大していくことができるのではないかなと思います。そのように校舎を活用していくと、結果として旧小島小学校が残っていくというようなことになる。

そうでないと、やはりだめだから建て替えましょうかといった話が次の何年かの先に起きるかもしれない。やはり業態、使い方というものを台東区側のほうで頑張ってやってほしいと思います。

○委員長 ありがとうございました。

今のご指摘についてはいかがでしょう。

○事務局 旧小島小学校、施設をご覧いただいてわかると思います。3階部分の活用について現在検討を進めているところで、旧小島小学校自体は中小企業振興センターということでございます。3階をどう活用するかというところで、ある意味、今のこの事業をどう

拡大していくかということにもなるのかなと思います。区としても3階部分の活用も現在いろいろと考えているというところでございます。

○委員 今のお話を引き継いで申し上げると、例えば上層階でもアトリエをやりたいということになればある程度の重さの物も上げたり下げたりできるような人家用のエレベーターをつけたいとか、そのような活用事例という先が見えていて、ガラスの箱のエレベーターを1個内側につけて、古いものと新しいものを一応縁を切っておきながら、新しいものをつける。そういうものをつけることによって上層階が非常にうまく使えるようになるとか、ある程度、今の既存ストックを活かしながらも少し投資をする必要が出てくるという可能性もあると思います。

確かにいろいろな議論があるかとは思いますが、台東区にとって戦略上不可欠な施設になる可能性があると思うので、先ほどの例えば委員のお話でも、中庭か駐車場かということも、駐車場が実は必要なので、ある程度駐車場をとらないといけないのは明らかなのですが、それも含めて、ここをきちんと景色もきれいな駐車場にして、そこからきちんとエレベーターで物を上まで持っていけるとか、あるいは、スタジオやらアトリエやらをやるのであれば、ここからここは自由に入れる形にして、もう展示空間と共用して使えるようにするとか、ある程度アトリエ的な使い方もできるようにとか、もういっそのことエキシビジョンもできるようにというように、せっかく体育館等もあるわけですから使い方は色々と考えられます。

あの建物の使えるポテンシャルをとことんまで使って、その上で必要なものについてはプラスアルファをする可能性も大規模改修をする時には区の全体の戦略と一緒に考えるということもできればよろしいかと思います。

そうした場合にもう一方では、今の事務所の改修のやり方を見ていると、内側も関係なくプラスターボードか何かで壁を張って全部隠して普通のオフィスにしていまえばいいですという感じに、中小企業振興センターの事務局もなっているのですが、ここはあえてあそこまでやらなくても、事務部門としては普通の教室のところにその設備を整えてあげればできることはできます。

将来、本当は別のことに使うかもしれないという可能性も少し頭の中に入れておくと、投資するときになるべく、例えば施設白書の中で、今後はスケルトン・インフィルなどそういう長期的に見て、建物の寿命を長く使うという提案をしているわけですから、あの建物をやはり同じようにスケルトン・インフィルをしていく。スケルトン・インフィルする

には小学校の校舎というのはやりやすい。

そういうことを含めて大規模修繕をするときに相応の汎用性も意識しながら、いじるべきところはいじるけれども、全体としては今の小学校として残っているようなものも活かしつつ、そこから戦略的にその台東区にふさわしいような戦略的な施設に持っていくような、相当難しいことをやらなければならないのですが、それをぜひ挑戦していただくのが本当はよろしいのではないかなと思います。ただし、確かに相応なお金もかかるかもしれません。

そうすることによって、恐らく区にとって非常に不可欠な施設と、あと、区の観光案内に丸いトイレの棟はそもそもデザインされているわけで、もう既に使っている建物ですから、非常にある意味、その象徴性を上手に使って戦略を立てていただくと本当は建物が一番活きるし、委員長がおっしゃったように、長く見たときにどうなのかということについてもある程度の方向性が出せるのではないかと思います。そこまで求めるのは難しいかもしれないですが。

○委員長 やはり、世界遺産が指定されている区ですから、それは求めないとまずいのではないですね。

○委員 区の観光案内に、あの円棟のトイレ棟は何かシンボリックに真ん中にデザインされているのですよね。

○委員長 私個人の意見を言います。

アーツ千代田3331は、皆さん行かれていますか。

○事務局 はい。アーツ千代田3331は行っています。

○委員長 私は大変いいと思いました。なぜかというと、ギャラリー機能があって、展示が入れかわるのです。ギャラリーが1階で入りやすいのです。それから、ショップもあるし若干の飲食もあるし、上の階のほうは割と貸しています。

私はあの構成は正しいと思っています。普段皆が出入りするのとはなるべく下の階と、ある程度貸している貸しオフィスのようなインキュベート部分は上の階にある。現在の旧小島小学校の使い方は、階層の使い方が間違いだと思っている。

それから、新宿区役所のすぐそばの、あれは中学校だったと思いますが、丸ごと企業に貸してしまして、残念ながら建物に一切入れない。要するに企業の建物になっているので入り口で遮断されている。少なくとも入口のフロアぐらいのところまでは入れるようにして、そこからセキュリティをすればいいわけです。今はかつての戦前の建物の雰囲気を楽しむ

わえない。ただ貸してしまったという印象だったのです。

やはり旧小島小学校はもう一工夫が私は要るのではないかと思います。今の使い方は大変結構だと思うのですが、世界遺産になったような区ですから、私は近い将来きちんと改修してほしいと思います。

それは幾つかポイントがあって、屋上は今使えない状況、それから、今の時代の中でバリアフリーとどう共存するかということは、区で真剣に考えていただきたい。基本的には屋上と上の階を使う前提だとエレベーターを設置するかどうか、設置の仕方はやはり現状の価値を損なわないやり方は幾らでも可能だと思いますので、しかも空間的には今の校庭の部分もあります。ぜひ真剣に旧小島小学校をどう今後、改修・活用すべきかということは、検討して欲しいという感じが私としてはあります。

それと同時に、個別で言うと、一つ今の使い方が悪いのは、若手の方に貸し出しているスペースと事務所のところを扉で仕切っていましたよね。区役所は管理しやすくするためにそうしていると思うのですが、私はあれは間違いだと思うのです。ですから、あくまでセキュリティに関しては、扉のところで幾らでも監視カメラなど何でもできるので、やはり復興小学校の建物を区の財産としてどう活用するかという前提の部分の議論がやや不明確なので、担当の部署が自分で扱った以上、自分で使いやすいように直していくということの表れではないのかなと思います。

それから、所管課からの意図だと、ギャラリーとかショップとか、それから旧小島小学校そのもののデザインの特殊性とか価値とかいうものを積極的にPRするという発想が出てこないと思います。それが悪いと言っていないですが、区役所の機能としては観光振興や公園のところをどう整備するかを全庁的にこういう意思の中で来年、再来年にすぐ直すということは難しいかもしれませんが、そういう意思を持ってやはり中期的にどう使っていくかということです。

例えば、トイレをあのようにメインのところに立派につくっている学校というのは、歴史的に見ると、このときの復興小学校ぐらいです。本来は一番陰に隠れるところでしょう。一番堂々と表のシンボリックなところに出ているので、それこそ日本はそういうトイレメーカーは世界に冠たるメーカーがあるので、そこに最新鋭のすばらしいトイレを企業の寄附で入れていただくなどのことを考えたほうが、これはトイレの文化の場所ですということだと思います。

やはり、小学生には立派な水洗トイレにして、それできちんとしたいというのが当時の、

東大教授で佐野利器、建築局長だった彼の理想だったわけです。だから、それは今に至る日本のシャワートイレがすばらしいとつながってくるわけです。

ですから、トイレの場所が一番シンボリックな位置にあるという、そういう特徴ある建物です。やはりそういうことでも少し、旧小島小学校のトイレは台東区で一番きれいなトイレがありますとか、それで女性が来るなどもよい。

○委員 その際にはぜひ女性用トイレも円形を活かしていただきたいと思います。今のところは四角くて、そこは少し改修していただいたほうがいいかもしれません。

○委員長 パウダールームとかですね。

そこは、やはりぜひ単独でしっかりと議論してほしい価値があると思います。それを台東区が持っているということが、台東区全体の価値を高めることだと思います。

ですから、もちろん浅草があつて上野があつて、現実、上野公園もあるし、それから谷中の墓地もあるし、谷根千もあつてさまざまあるのですが、やはり公共施設を、少なくとも三十数個あったうちの1個をこのようにユニークに使っているということは、ぜひ区としての財産だというプライドを持ってやってほしいなという点でいうと、少しいろいろまだ課題があると思います。

つまり、現状だと先ほど言ったように屋上を何かのときに使ってもらいましょうとか、それこそ地元の方も喜ぶと思います。屋上で盆踊りをやってもいいですし、そういうところは、ぜひ考えてほしいと思います。これは個人の考える意見ですが、いかがでしょうか。

○事務局 今回この復興小学校についての考え方ということで、学識経験者の方を入れて改めて考えてみようという会を立ち上げたということは、今までそういう視点は、はっきり言ってありませんでした。ものづくりのまち台東、台東ブランドを発信しようと区長も言っていますので、そこは重要な拠点となる施設だと考えています。

ただ、中小企業振興センターとしての中身までは詰まっていない状況なので、それをどう構築していくか検討する中で、今いただいた委員の観点も入れられるものは、ぜひ入れていきたい。入れていけるように努力はしていきたいと思っています。

○委員 今の委員長の意見に全く賛成、個人的意見とおっしゃいましたが、私も全く賛成です。小島アートプラザ事業が終了して中小企業振興センターとしてということなのですが、例えば、台東デザイナーズビレッジという名前は残るのですか。

○事務局 デザイナーズビレッジという名前は残っております。

○委員 では、例えば、施設保全計画を見ると中小企業振興センターとなっているのです

が、何かいろいろとインターネットサイトなどを見ると台東デザイナーズビレッジは結構出てきます。やはり小学校をうまく利活用した、それも、ものづくりのまち台東区の事例として、例えば世田谷のものづくり小学校であるとかそういったものと一緒に出てくるので、同じような内容のお話なのですけれども、その辺のものづくりと一体化したプログラムを持った施設としての整備のあり方というのは、ぜひご検討いただくとよいと思います。

○事務局 デザイナーズビレッジについては、おっしゃるとおり有名で、全国から視察も来るという状況で、かなり有名になっているのですが、その後、区の産業振興の全体をどうするかというときに、プラスして中小企業振興センターを後づけしていますので、その部分はまだまだ知られていないという状況は現在あると思います。

実際に3階部分についても、一部分は使用している状況ですが、現在ビジネス支援ネットワークなど新しい事業を実施していますので、その展開の推移を見ながら3階をどう活かしていくか、所管も十分考えた上で手を入れるなら手を入れていきたいと考えています。

あと、現在、台東区産業振興計画を、所管課で作成していますので、旧小島小学校も大きな拠点としての位置づけになりますから、そういった意見がこの場に出ていたということは所管に伝えながら、今後どうするかについては引き続き検討していきたいと考えているところでございます。

○委員 きっとその所管ごとのネーミングというのもあると思うのですが、やはり一般的な目線からすると、あそこはトータルで何と呼ぶのかということもあるのかなと思うので、一般的な目線である施設全体をどう呼ぶのかなという辺りも少しご検討いただくとよいと思いました。

○事務局 今のところ、これは区の考え方ですが、中小企業振興センターという総称にしています。

○委員 そうですね。愛称もあってもいいかもしれないです。

○事務局 それは考え方なので、色々なとり方はできると思いますけれども、区としては全体を中小企業振興センターとしており、その中にデザイナーズビレッジが今までどおりあるというのが今の考え方でございます。

○委員長 私は、今の建物の使い方にしても、ちょうど今から5年ぐらい前ですが、非常に素直にいいと思いました。ぜひ、もう一段階やはり頑張ってもらいたいと思います。やはりあの小学校はもちろん全体が財産で、逆にそこに中小企業振興センターが入っていますという言い方で、それだったらいい。中小企業振興センターということでやっている限り

3階屋上の話やトイレの話は出てこない。

実は海外のこういう土地には色々な中小の、マニアックなミュージアムが随分あります。ですから、この場合はそれと地場産業、それからデザイナー、非常に女性が多いので、女性が輝くとか頑張っているというときの非常に重要な要素になっている。やはり、全体をどうするかというのはぜひもう一回考えて、いつの時期に工事をやるのかということは長期的にやればいいです。

それはさておくとして、全体の話でいうと視点が違ってきて、京都市に行かれたように、例えば京都国際マンガミュージアムや京都芸術センターなどいろいろ名前のつけ方がある。基本的にはあくまで校舎に入っているというテナントだと思います。根本のところはぜひ、こういう世界遺産の指定を受けたというタイミングで、区としてぜひ認識を新たに、より頑張してほしいと思います。

○委員 今の委員の方々のご意見に少しだけ附言させていただくと、結局その区のブランディング戦略を考えると、戦前の大正末から昭和期の建物が今まで地域のブランディング戦略を考えると使えないという認識がありました。戦後にかけての建物は使えないという認識が自治体は恐らく強いのです。でも、ル・コルビュジエは戦後でもない、でもそれはル・コルビュジエだからという話もあるかもしれないです。

例えば、自分の知っている事例では、青森県弘前市は「弘前の建築」というパンフレットをつくり観光客に配布して、見学してくださいということでいろいろ紹介していますが、明治期の建物だけではなくて戦後の前川國男めぐりという、そういう位置づけが1ページ、2ページだけあって、戦後の建物でもそこをめぐって観光に、ブランディングに使えるということをやっているわけです。この旧小島小学校については、そういうブランドに使える建物としてのポテンシャルを持っている可能性があるということだと思います。

台東区の場合には、あまりに多くのポテンシャルがあり過ぎて埋もれてしまうことが大きくて、比較的この時期の建物についての価値というのはあまり表立って議論されていないと思います。そういったブランディングの可能な建物と、もう一つブランディングの可能なコンテンツを1個にまとめられるのではないかと戦略的な点がここで立てられると思います。

そういうところから、黒門小学校はそもそも学校として、先ほどの話で一言だけ言いますと、登録文化財にしてもというような個人的な感じはあります。OG・OBが必死に言ってくれば、そこまで言うのなら登録文化財としての選択肢もあるような気がします。

東浅草小学校はやや地味目なのですが、もう一方で公園などをうまく使えばコンパクトな都市型の小学校としていい性能を出せるのではないかというポテンシャルがあると思いますし、その点で旧小島小学校は区の看板施設にし得るポテンシャルが出せるのではないかと、ということで、それぞれ建物をうまく使ってブランディングをして、区の財産として、区全体を認識してもらうにも、外から人に来てもらうにも、住んでももらうにもよるしい建物として十分考えられます。

わざわざお金をかけて新しい建物を建てても、それをブランディングするにはまた50年とか100年かかってしまうので、今あるものを使えばやや安く、非常に強力なブランディング戦略が立てられるという点で積極的な価値づけができるのではないかと、ということが委員長や委員のお話なのではないかなと思いました。

今申し上げたように、前川國男氏で有名人ですけれども、戦後のものでもブランディングをしている自治体があるので、そういう建物ですらブランディングして、色々な地域の価値づくりに使えるということなので、この時期の建物は確かに使うことができる可能性があると思います。そのことも含めて区全体としての戦略を立てていただけるとありがたいと思います。

○委員長 ありがとうございます。

例えば、この屋上で結婚式などをやってみようと考えたことがありますか。

○事務局 ありません。そういう発想はなかったです。

○委員長 旧小島小学校などをきれいにしたら、他のチャペルよりよっぽどいいと思います。

○委員 自治体でも地域ウェディングやられている自治体ありますね。

○委員長 多いです。

○委員 それこそ目黒区役所が貸しているのですけど。

○事務局 それは職員の発想で実施したようです。

○委員 建物はすごくいいのですけど、結婚式をするには附属のさまざまなサービスを区が提供できないということがあります。

ただ、そういうものをしっかりと提携して外から持ってくる。恐らく目黒区の事例も、美しいあの階段とか、写真の撮りようは幾らでもあるので、それはあり得ることだと思います。

○委員長 ホテル並みの宴会をする必要はないので、簡単でいいのです。多分ニーズはあ

ると思います。

ですから、要は今まで確かにこういう使い方をされてきたということは大変いいのですが、もう一段さらに頑張ってもらいたいということです。現状に甘んぜずより価値を高めてほしいという、これは絶対その潜在的な要素は持っているところなので、これは皆さん全員一致していると思うので工夫次第です。

ですから、それを区としてぜひ考えてほしいということで、やはり3階、屋上も含めて、今の利用の仕方、再配置も出てくると思います。

東京市の公園を丸ごと全て戦前の設計どおり復元する理由は全然必要ないとは思いますが、絶えずどういう意図でつくっていたかというのを見ながら、今の台東区役所で一番いい使い方を考えていくことだと思います。ぜひ台東区のブランド価値を高めるということで頑張ってもらいたいと思います。

我々の結論は、今までの台東区の取組は大変結構ですが、さらにもう一頑張りしてほしいというところで、よろしいですか。

ただ、具体のところは最後の最終回までに、場合によっては細かな部分を提案や意見など、我々の役目は提言することですので場合によっては少し書き込むかもしれません。何も特になければ、次回以降の話に入りますが。

○事務局 委員長、資料を追加で先ほどお配りさせていただきましたので、簡単に説明をさせていただきますてよろしいでしょうか。

○委員長 はい。

○事務局 それでは、追加でお配りいたしました資料をご覧ください。

(「学校跡地の活用構想」、「大規模用地の活用構想」、「入谷地域の検討組織の位置づけ」、「台東区大規模用地の活用に関する提案募集検討報告書」説明)

○委員長 ありがとうございます。

では、本日、3校についての基本的な方向は委員のメンバーとしてはほぼ一致を見ていますので、それを少し文書化するなり、ぜひよろしくお願ひしたいと思います。

特に何か、資料とか、次回こういうことをしてほしいという部分で、ご希望、ご意見あれば、よろしいですか。

また途中でお気づきでしたら個別に、細かいところでも結構ですので、事務局に直接ご要望とかご指摘をいただければと思います。

では、委員会としてはこれで終わりにしたいと思いますが、事務局から何か一言ありま

すか。

○事務局 事務局から事務連絡をさせていただきます。

本日は、貴重なご意見をありがとうございました。

次回の検討会の日程でございますけれども、第1回目のときに決めていただきましたとおり、10月20日木曜日、午前10時を予定しております。会場は、また本日と同じこちらの場所でございます。改めまして通知につきましては後日させていただきますので、よろしくお願いいたします。

○委員長 ありがとうございます。

その他、事務局から何か発言ありますか。

○事務局 今日には活発なご意見をいただきまして、ありがとうございました。

委員長のおっしゃる、復興小学校があつて、その価値があつて、その上で中小企業振興センターが借りているという発想はありませんでした。それをどう実現性を目指すかというのは非常にハードルが高い課題と思っておりますが、この中でいただいた意見は十分活かせるような努力はしていきたいと思いますので、本日はありがとうございました。

○委員長 ありがとうございました。

また次回、よろしくお願いいたします。

(午後 0時10分 閉会)